

## 公共交通の利用について

### 実施概要

担当部局	実施期間	対象者数	回答者数	回答率
交通政策課	2009年02月04日から 2009年02月27日まで	1138	792	69%

三重県政策部交通政策室です。

モータリゼーションの進展や過疎化・少子高齢化の進行などにより、三重県内の鉄道やバスの利用者は減少し、事業者だけで維持・確保していくことが困難となっています。

そのため、県民のみなさまの移動手段として、鉄道やバスといった公共交通（以下「公共交通」という。）を維持・確保するために、事業者に対し、国や県、市町が補助金を交付するなどの支援を行っています。

近年では、小型車両を利用して均一運賃で乗れるコミュニティバスなどを運行する市町も増えています。

公共交通は、高齢者や学生などの自家用車（バイクを含む。以下「自家用車」という。）を運転しない方々にとって、日々の通院、通学、買い物などに必要不可欠な移動手段です。それだけでなく、公共交通は、地域づくり、まちづくりの重要な社会基盤でもあります。

自家用車での移動は、非常に便利で、行動範囲が広がり、日常生活に必要なものとなっています。しかし、過度に自家用車に頼りすぎた生活は、地球温暖化対策・道路渋滞解消・交通事故防止などの観点からも、見直す必要があります。

そこで、みなさまに、別添「かしこいクルマの使い方」をご覧いただき、公共交通の利用者を増やすためのポイントなどをお伺いします。

### ■ 添付ファイル

- [かしこいクルマの使い方](#)

### ■ Q1 鉄道の利用状況

あなたは、普段どの程度鉄道を利用していますか。

「ほぼ毎日利用する」「週に1, 2回くらい利用する」「月に1, 2回くらい利用する」と回答された方はQ2へ、「ほとんど利用しない」「全く利用しない」と回答された方はQ3へお進みください。

合計	792	
ほぼ毎日利用する	84	10.6%
週に1, 2回くらい利用する	38	4.8%
月に1, 2回くらい利用する	169	21.3%
ほとんど利用しない	416	52.5%
全く利用しない	85	10.7%

### ■ Q2 鉄道の利用目的

Q1で「ほぼ毎日利用する」「週に1, 2回くらい利用する」「月に1, 2回くらい利用する」と回答された方にお尋ねします。

鉄道を利用する目的は何ですか。（複数回答可）

合計	291	
通勤・通学	105	36.1%

仕事（通勤を除く）	75	25.8%
通院	7	2.4%
買い物	101	34.7%
趣味	70	24.1%
旅行	63	21.6%
その他	23	7.9%

### ■ Q3 鉄道を利用しない理由

Q1で「ほとんど利用しない」「全く利用しない」と回答された方にお尋ねします。

鉄道をほとんど（全く）利用しない主な理由は何ですか。（3つ以内でお答えください。）

合計	501	
目的地まで徒歩、自転車、車椅子等で移動できるから	84	16.8%
自分（家族）が自家用車を運転でき、自家用車を利用したほうが便利だから	377	75.2%
自家用車と比較して移動に時間がかかるから	138	27.5%
運行本数が少ないから	101	20.2%
運賃が高いから	48	9.6%
駅が自宅から遠いから	176	35.1%
目的地が駅から遠いから	96	19.2%
その他	44	8.8%

### ■ Q4 バスの利用状況

あなたは、普段どの程度バス（観光バス、県をまたいで乗車する東京等への高速バスを除く。以下同じ。）を利用していますか。

「ほぼ毎日利用する」「週に1, 2回くらい利用する」「月に1, 2回くらい利用する」と回答された方はQ5へ、「ほとんど利用しない」「全く利用しない」と回答された方はQ6へお進みください。

合計	792	
ほぼ毎日利用する	16	2.0%
週に1, 2回くらい利用する	14	1.8%
月に1, 2回くらい利用する	59	7.4%
ほとんど利用しない	383	48.4%
全く利用しない	320	40.4%

### ■ Q5 バスの利用目的

Q4で「ほぼ毎日利用する」「週に1, 2回くらい利用する」「月に1, 2回くらい利用する」と回答された方にお尋ねします。

バスを利用する目的は何ですか。（複数回答可）

合計	89	
通勤・通学	33	37.1%
仕事（通勤を除く）	18	20.2%
通院	7	7.9%
買い物	21	23.6%
趣味	20	22.5%
その他	12	13.5%

### ■ Q6 バスを利用しない理由

Q4で「ほとんど利用しない」「全く利用しない」と回答された方にお尋ねします。

バスをほとんど（全く）利用しない主な理由は何ですか。（3つ以内でお答えください。）

合計	703	
目的地まで徒歩、自転車、車椅子等で移動できるから	134	19.1%
自分（家族）が自家用車を運転でき、自家用車を利用したほうが便利だから	495	70.4%
自家用車と比較して移動に時間がかかるから	220	31.3%
運行本数が少ないから	271	38.5%
運賃が高いから	138	19.6%
バス停が自宅から遠いから	143	20.3%
目的地がバス停から遠いから	84	11.9%
その他	51	7.3%

### ■ Q7 公共交通利用に便利な情報

公共交通に関する情報は、ホームページなどで各事業者が提供しています。

さらにどのような情報が冊子などでお手元があれば、公共交通を利用するのに便利だと思いますか。（3つ以内でお答えください。）

合計	792	
自宅近くの駅・バス停の時刻表（出発時刻・到着時刻・バスと鉄道の乗り継ぎ時間等）	578	73.0%
路線図（自宅から駅・病院・スーパー等に行く経路、途中のバス停等）	450	56.8%
運賃（自宅の最寄り駅・バス停から目的地の最寄り駅・バス停までの運賃、料金など）	367	46.3%

沿線・駅周辺の情報（商店・病院・おすすめスポットなど自家用車では見落としがちな場所を紹介）	228	28.8%
バリアフリーの整備状況（駅のエレベーター設置状況、ノンステップバスの運行状況など）	47	5.9%
その他	44	5.6%

## ■ Q8 公共交通利用の広報について

自家用車の利用を見直し、公共交通の利用を促進するために、どのような視点で広報していくことが最も効果的だと思いますか。1つお選びください。

合計	792	
CO2など温室効果ガスの排出を減らすことができ、身近に環境問題への取組を行うことができる点	268	33.8%
道路渋滞の解消につながる点	104	13.1%
自家用車と比較して、交通事故の心配が少ない点	58	7.3%
バス停や駅まで歩くことなどにより、健康づくりに役立つ点	61	7.7%
日々の通勤・通学、通院、買い物などに必要不可欠な移動手段を維持・確保できる点	134	16.9%
読書や車窓を楽しむなど、ゆとりある移動時間を過ごすことができる点	53	6.7%
中心市街地活性化などのまちづくりの社会基盤として必要である点	74	9.3%
その他	40	5.1%

## ■ Q9 「エコ通勤デー」等への参加

三重県で県民が環境や交通について考える1日として、自家用車を使わず公共交通を利用するように努める「エコ通勤デー」や「カーフリーデー」を実施した場合、ご協力いただけますか。

合計	792	
すでに公共交通をほぼ毎日利用している	59	7.4%
環境問題への対策として有効と考える為、可能な限り協力する	187	23.6%
月に1日くらいなら協力できる	111	14.0%
年に数回くらいなら協力できる	105	13.3%
利用できる公共交通が近くにないため、協力できない	113	14.3%

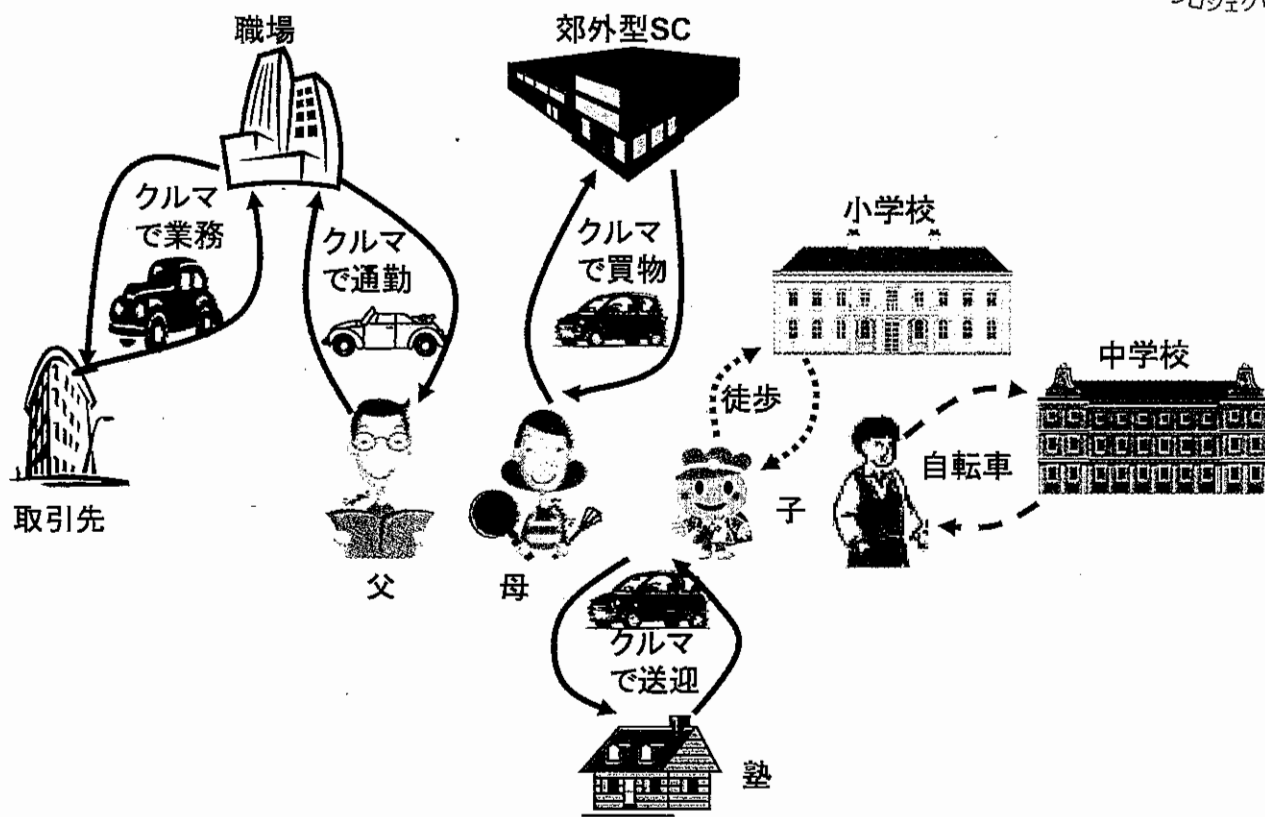
利用できる公共交通が不便（運賃が高い、運行本数が少ないなど）なため、協力できない	165	20.8%
趣旨に同意できないため、協力できない	10	1.3%
その他	42	5.3%

各ページの記載記事、写真の無断転載を禁じます。  
All Rights Reserved, Copyright(C)2006.Mie Prefecture

# かしこいクルマの使い方を考えましょう

環境に、健康に優しい公共交通の利用を！

クルマ社会の便利なライフスタイル



クルマは私たちの行動の範囲を広げ、暮らしに豊かさをもたらしてくれます。

しかし、クルマに頼りすぎることはこんな問題もあるのです。

## クルマと環境

・左の表は、1人を1km運んだ場合に発生する二酸化炭素の量を、鉄道、バス、マイカーの別に示したものです

・たとえば、5km離れた職場へクルマで通勤している人は、往復で $173 \times 5 \times 2 = 1730$ グラムの二酸化炭素を排出します

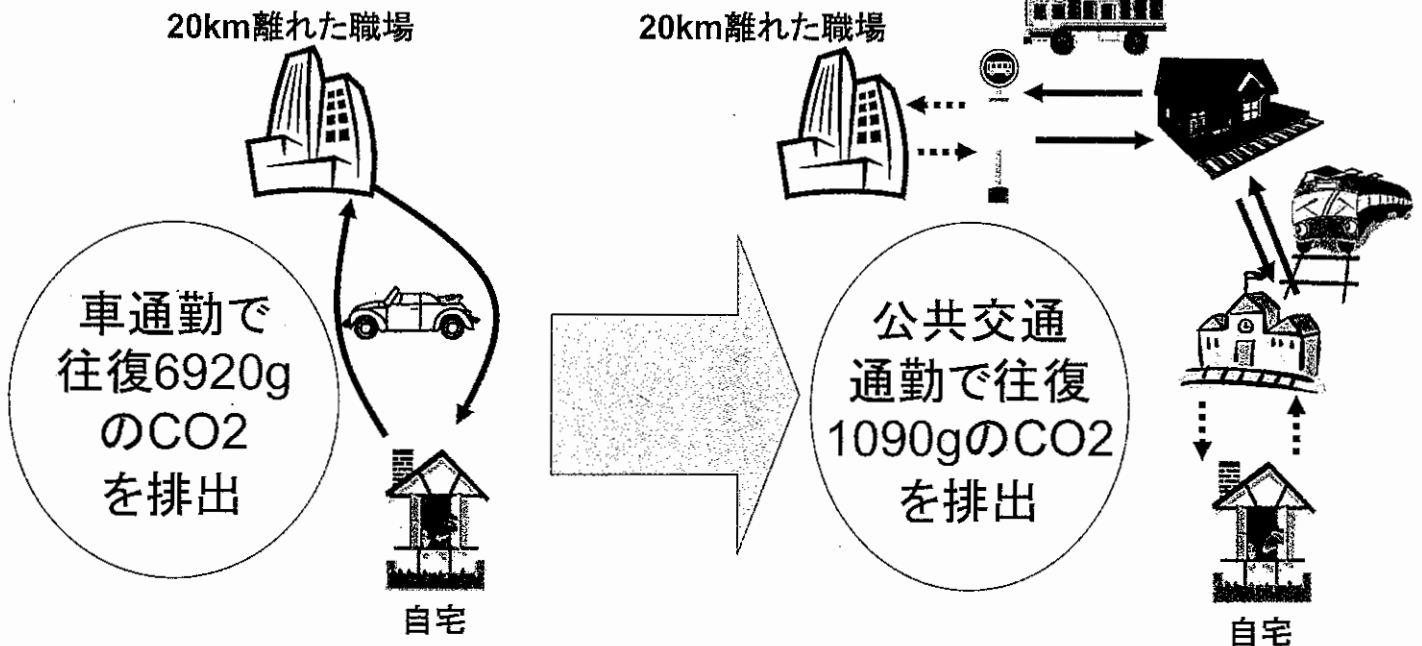
・ここで、通勤手段をクルマから鉄道に変えるとすると、往復の二酸化炭素排出量は $18 \times 5 \times 2 = 180$ グラムとなります

・つまり、通勤手段をクルマから鉄道へ変えると、この場合、1日あたりの二酸化炭素排出量を1550グラム減らすことができます

輸送機関別 二酸化炭素排出原単位 (人1kmあたりg-CO <sub>2</sub> )	
2002年現在	
輸送機関	グラム
鉄道	18
営業用バス	55
自家用乗用車	173

出典：温室効果ガスインベントリオフィス

(例：20 km離れた職場への通勤を、バスと鉄道に変えた場合)



その差は5830グラム！公共交通通勤に変えれば、1日で蛍光灯44本を8時間消灯するのと同じ二酸化炭素削減効果がある！テニスコート4～5面分の森林が1日かかりで吸収するCO<sub>2</sub>に匹敵！

# クルマと健康

単位はkcal

種目	男性 30代	女性 30代
	体重65kg	体重50kg
歩く(やや早歩き)	40	29
自転車	41	29
自動車の運転	18	13
立ち仕事	25	18
通勤(座って行く)	14	10
通勤(立って行く)	23	17

・左の表は、30代の平均的な男女が通勤に伴う運動を10分おこなったときの消費カロリーの値です(基礎代謝は含みません)

・たとえば、体重65kgの30代男性が自転車を往復30分間こぐと、 $41 \times 3 = 123$ kcal消費します

・人間の体脂肪は1g当たり7.2kcalのエネルギーを貯蔵していることから、 $123 \div 7.2 = 17$ gの脂肪が減る計算になります。つまり、往復30分間の自転車通勤を20日間続けると、この男性はおよそ340g減量できることになります

参考資料:厚生労働省「第6次改定日本人の栄養所要量」および愛知医科大学運動療育センター  
<http://www.aichi-med-u.ac.jp/psr/index.html>

(例:20 km離れた職場への通勤を、バスと鉄道に変えた場合)

20km離れた職場

20km離れた職場

車通勤は  
往復144kcal  
=  
体脂肪20g

公共交通  
通勤は往復  
346kcal  
=  
体脂肪48g

自宅

自宅



公共交通通勤に変えると、  
1ヶ月で体重が560g  
減る計算か!

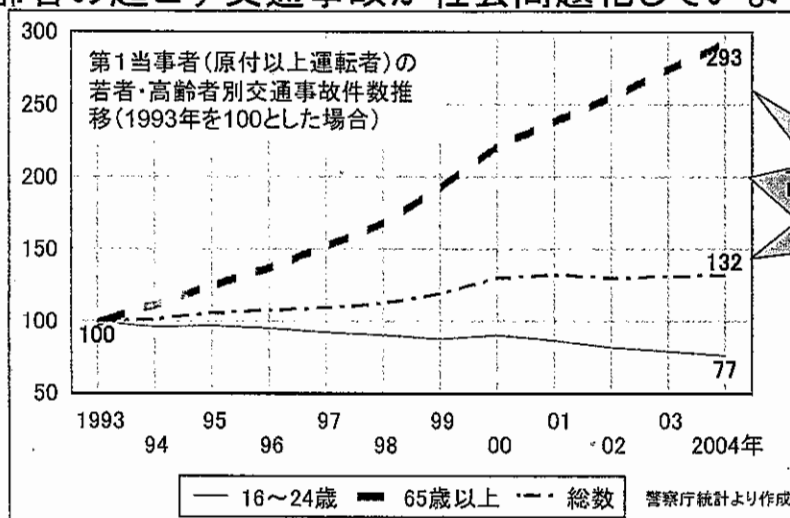


## クルマと安全

- ・わが国の人口10万人あたりの交通事故負傷者数は、1980年の518.9人を境に増加に転じ、2004年には927.1人！
- ・車で年間1万キロを50年間走ったとすれば、280人に1人が死亡事故を起こし、450人に1人が運転中の事故によって死亡します！

(平成16年の警察庁統計と同年度の国交省「自動車輸送統計調査」より算出)

- ・高齢者の起こす交通事故が社会問題化しています！



高齢者の起こす事故が激増！

## 三重県のバス・鉄道利用率、補助金の推移

- ・三重県ではクルマ利用が増える一方で、バス・鉄道利用者数は、年々減り続けており、赤字路線の休・廃止が心配されています。
- ・路線を守るために、国・県・市・町から多くの税金が投入されています。

(移動時におけるバス・鉄道利用率)

	1975年度	1990年度	2000年度	2003年度	
全国平均	57.9%	36.4%	31.1%	29.8%	
三重県	44.0%	19.3%	12.3%	9.8%	「数字でみる中部の運輸」より

(県予算におけるバス・鉄道補助金)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度 (百万円)
合計	511	732	721	720
(バス)	462	495	529	541
(鉄道)	49	237	192	179 (中小民鉄対象分)

環境問題、少子高齢化の今 ……クルマと公共交通、徒歩、自転車を

「かしこく使う」まちづくり・ひとづくりが求められています。

ひとり一人が、少しずつ、無理なく、取り組めば、きっと未来は開けます。

(このパンフレットに関するお問い合わせ 三重県政策部交通政策室 TEL 059-224-2805)